



# かおり通信

12月号  
NO.9

学校教育目標……『自分らしさを大切にし、互いに認め合える子どもの育成』 「自律」と「共生」

めざす子ども像…『共に考える子・互いに思いやる子・みんなでチャレンジする子・最後まで諦めない子』

めざす学校像……『子どもたちから笑顔が絶えない学校・気持ちのいい挨拶、きれいな学校・教職員同士が

専門家として成長できる学校・保護者の期待に応える学校・地域と学校が支え合う学校』

茅ヶ崎市立香川小学校 2024年度 12月号

2024年11月29日発行

## 「た・こ・や・き・さい・こう！！」

### ～5年生、キャンプに行ってきました～

11月19日（火）～20日（水）、5年生が神奈川県立愛川ふれあいの村にキャンプに行ってきました。とても寒く12月中旬並みの気温で、2日目には雨も降ってしまいましたが、予定していたプログラムをすべて無事行うことができました。

「た・こ・や・き・さい・こう」は、5年生の子どもたちがみんなで考えたキャンプのスローガンです。「た」・・・「楽しくすごす」「こ」・・・「行動に気をつける」「や」・・・「やさしく助け合う」「き」・・・「協力する」「さい」・・・「最高の思い出をつくる」「こう」・・・「不言実行、言われなくても行動する」スローガンには、そんな意味が込められているそうです。

愛川ふれあいの村に着いてすぐ、お昼のカレー作りをしました。それぞれの行動班に分かれ、班長、副班長、食材係、用具係、かまど係などの役割の仕事に責任をもって取り組んでいました。どの班も、お互いに声をかけたり手伝ったり協力してカレーを作っていました。少し焦げてしまった班もありましたが、感想を聞くと「みんなで作ったから最高においしかった！」という声がたくさん帰ってきました。広いグラウンドで、学年全員で「野外レク」をして思いっきり走り回った後は、待ちに待った「キャンプファイヤー」。子どもたちの「おーい。火の神よ。」の呼び声に「火の神」登場・・・「火の神」は、こんなこと子どもたちに語りかけていました。

この森に集う人間の子どもたちよ。今宵、汝らに神聖な火を授けよう。この火は、いつでも汝らの祖先を照らしてきた。そして、その火を大切に大切にしてきた。なぜなら、火は、「あたたかさ」の象徴であり、「エネルギー」の源だからだ。汝らの遠い祖先は、その火の周りに集い、火を囲み、輪を作ったのじゃ。今宵、その神聖な火を汝らに授けよう。そして、火と火をつなげよう！火と火をつなげよう！（おー！）火と火をつなげよう！（おー！）



そして、火の精霊たちが、一人一人、「友情の火」「勇気の火」「希望の火」「感謝の火」「協力の火」を授かり、5年生の子どもたちみんなが囲んだ薪に、火が灯されました。その後は、大きく燃え上がる火を囲みながら、手をつなぎ、肩を組み、ゲームをしたり歌を歌ったり踊ったり、クラスそれぞれのスタンスを披露したり・・・文字通り、全力で楽しみました。

最後は、次第に小さくなっていく火をみんなで見つめました。5年生のあの日、みんなで見つめたその火をいつまでも心の中に灯してほしいと思います。

## 「学習評価に関する説明会」②

### ～たくさんのご質問ご意見、ありがとうございました～

10月11日（金）に実施した本校の学習評価に関する説明会について、かおり通信11月号でご報告させていただきました。説明会で、いくつかのご質問を頂戴いたしましたので、この場をお借りして共有させていただきます。（その場での回答に補足の説明を加筆いたしました。）

Q「なぜ、年度途中の変更になったのでしょうか。」

A「学習評価をどうするのか、どのようにお伝えするのかということは、これまで、職員全員で何度も議論し検討を重ねてまいりました。昨年度末に実施いたしました「学習評価に関するアンケート」の結果や、5月の「学校説明会」で頂戴したご意見等を受けて、今年度は、校内に評価検討委員会を立ち上げ、学年末に、昨年度試行的に実施した「三者面談」を実施すること、その際、数値での評価を紙面でお伝えすることといたしました。結果として、皆さまにお伝えするのがこの時期になりましたことにつきましてお詫び申し上げます。

Q「数値の評価、たとえば、ABCは、クラスの中で人数が決まっているのでしょうか。」

A「以前のような相対評価ではありませんので、人数は決まっておりません。また、3段階の数値の意味は、Bが規準、達成できているということです。私たち教員は、全教科を通じて一人でも多くの子が、Bの状況に達することができるよう努力いたします。

Q「通知票が復活するというのでしょうか。」

A「形だけ見るとそのようにとらえられますが、通知票に示された数値の意味をしっかりとらえなおすことを大切にしたいと考えています。その意味で、日常の評価を継続して行っていくことと、学年末に詳しくご説明しながら三者面談でお渡しすることといたしました。

Q「数値の評価も大切ですが、それ以上に友だちとのかかわりや生活の様子、係活動にどんな風に取り組んでいるのか、先生方からいただく所見が励みになるとは思いますがいかがでしょうか。」

A「今年度末は、これまでの本校の学習評価の取組を活かして、そのことも含め、三者面談で丁寧にお伝えしたいと考えています。」

Q「子どもたちへの伝え方は、どのようにされるのでしょうか。」

A「子どもたちの値踏みや序列意識の助長にならないよう、単にAだからよい、Cはダメということではなく、次の目標につなげたりよさを伸ばしたりすることができるよう、その意味をしっかりと子どもたちに伝えたいと考えています。  
(文責 松永)

そのほかにも、ご参加いただきました保護者の皆さまからたくさんのご意見、ご感想をいただいています。お一人お一人のご意見に真摯に耳を傾け、保護者の皆さまとともに考えてまいりたいと思っております。

・学習評価に対する説明を丁寧にいただき、ありがとうございました。学習評価が、家庭に「形」をもって伝えられないことに今まで疑問を感じていたため、今回の先生方の決断はとてうれしくありがたく思っています。

・観点別評価を受け取る側（児童・保護者）が、その内容を理解できるのかと疑問に思っています。学期末にいただいた時点であらためて意見等を発信させていただきます。

・通知票がなくなり、子どもの基礎学力が定着しているのかどうか伝わってこなかったです。ポートフォリオでなく数値化していただけると、習熟度等が分かってよいと思います。

・三者面談について、次の学年に向けてのお話をしてくださるとのことですが、6年生の子には時期が遅いのではないかと思います。12月の面談で、現状や中学に向けての過ごし方などのお話ができると思っていました。少し残念です。

・4年間通知票がなくても、個人面談でしっかり伝えていただけていましたが、その評価が見えるようになるのは、家族間で共有できとても良いと思います。最終学年、小学校最後の評価が残せることがうれしいです。

・面談で先生がお話してくださることも書面でいただけるのでしょうか。これまで面談では、子どもたちの振り返りを見ながらお話を聞くスタイルだったので、その場では納得しても、覚えきれず、子どもや家族にきちんと伝えられなかったので、書面でもいただけるとうれしいです。また、詳しい評価規準を共有してくださるとのことなので、子どもたちにも伝えていただきたいです。

・引き続き、面談にて伝えていただけるのはうれしいです。ただ、クラスにより伝え方が違うように感じます。

・中学生の言葉（アンケートの回答理由）を聞くことができよかったです。通知票について、否定的な意見の子が「比べられて嫌な気持ちになる」「思春期の中学生にとって、親に数字で判断されるのは・・・」といった意見を聞いて、保護者の立場で、子どもと通知票を共有する際に、子どもがプラスに感じられるような反応をし、成績表が、自信を失くすマイナスなアイテムとなるのではなく、学習に取り組むための参考資料としてのプラスのアイテムとなるよう声かけしていくことの大切さを改めて実感しました。

・学習評価について、変更後どうなったのかを、保護者、そして、子どもたちにもアンケートを実施して、再評価、検討をしてくださったこと、とても有難いなと思っております。わが子たちの意見も聞き、いつももどかしさを感じておりました。先生に聞けば、学習評価の内容を教えてください、  
「所見」は難しいが、先生によっては、所見以上の子どものよいところを書いた手紙を書いてくださることを知り、わがままだと思いつつもお時間をいただいてお話をさせてもらっていました。

・成績表をつける作業が、先生方の業務量をアップさせてしまうことは承知しています。本当に大変なんだなと思います。ただ、成績表がなくなる以前の対応でも、子どもたちの成長に今と大きな変化はないのかなと、正直感じています。ポートフォリオやテストの返却方法など、先生によって対応が違うのであれば意味はないと思います。こちらからたくさんコメントを書いてもハンコ一つの先生もいます。家庭の負担も大きいです。

・メディアにも数回取り上げられた「通知票を出さない学校」としても、よい意味で発展できることを期待しております。市内、県内、ひいては全国的に、この取組に対してはどのような評価がされているのでしょうか。（中略）通知票があることに賛成ですが、無いことでのメリットも分かりました。通知票に表せないことの中に、子どもにとって思いがけない大切なことを含んでいると思うので、形のあるものに隠れてしまうことのないように、それを見出していくことが大変重要であると思います。これからも議論を惜しまず続けていただきたく、先生方には感謝するのみです。

・（通知票を出すことで）「子どもたちの序列」ができてしまうというのは、何か少し議論がずれているというか、そうならないように、家庭や学校が子どもに説明をしなければいけない部分であって「通知票」をなくす理由にはならない気がしています。数字の評価も大切ですが、できることなら、先生からの所見、言葉書きもいただければと思っています。面談でお話しただけると聞いて少し安心しましたが、子どもへの「大切なメッセージ」として、「今まで頑張ったね。」「次はここを頑張っている。」「と（子どもといっしょに）ゆっくり振り返ることができました。 （文責 松永）